(第3種郵便物認可)　2009年（平成21年）12月20日

スポニチ県版
新潟
〒951-8106 新潟市中央区東大畑通り1-643 毎日ビル3F
☎025(222)2126
FAX 025(227)1416
広告のお申し込み、お問い合わせは☎03(3820)0691
情報をお寄せください メルアド:sn-niigata@sponichi.co.jp

〝ミスター・バイタル〟プレー続行

染井 来季 野田サンダーズ

⬆新天地へ思いをはせる染井　⬅⬆久しぶりのバットの感覚に、染井は思わず素振りを始める

バイタルネットの染井典明内野手(36)が来季、クラブチーム・野田サンダーズでプレーすることになった。今月上旬の納会の席上、バイタルからの引退を表明したが心機一転、今度は新天地にベテランの力を注入する。戦力アップを図る野田側にとっても実績、経験とも十分な染井の存在は大きい。すでに前アルビBC・富樫健太郎投手(20)の加入も決まっており、来シーズンの県社会人球界に旋風を巻き起こしそうだ。

一時引退決意も

選手、主将、コーチ兼任まで経験した生え抜きの18年生。〝ミスター・バイタル〟が野田サンダーズでプレーを続行することになった。一時は役職もついた仕事面や今春に結婚した家庭面なども考え「これからは仕事中心で。家庭も重視しないと。チーム（バイタル）は若手に切り替わるサイクルになっているし、引き際も大事。この辺かな…」と引退を決意した。

だが根っからの野球人。獲得へ熱心にラブコールを送った野田側に対し「（自分が）必要と言ってくれる人、チームがあるなら応えなければ」と再び、グラウンドへの思いを強くした。「（現役としては）やれてあと2、3年。（野田に）長居するつもりはない」と〝最後のチーム〟にするつもり。染井の心意気を野田の野田誠記監督も「大きな戦力となる。期待している」と大歓迎している。

「やれてあと2、3年」〝最後のチーム〟に

決意にはもうひとつの側面がある。県社会人球界に君臨するバイタルだが、今秋の日本選手権1次県大会では〝ヒヤリ〟とさせられた。準決勝は終盤まで1点のリードを許し、決勝は先制点を奪われた。いずれも逆転勝ちしたものの王者らしからぬ展開。県内では勝って当たり前の勢力地図ながら「どんな試合でも危機感、緊張感を持ってやってほしい」と染井は言う。群雄割拠の2次北信越大会、そして全国大会で古巣の躍進を願うからこそ、自らの態度で示したかった。

来季はバイタルと相まみえる。だから全力を傾ける。「（野田でも）スタイルは変えるつもりはない。言葉じゃなくても自分を見て、お手本になれるように」。それはバイタルの若手選手たちへのメッセージ。同時に新天地にも有形無形の効果をもたらしそうだ。

（矢崎　弘一）

悔しい思い出

⑪…古巣への感謝の言葉も忘れなかった。高卒後、２年目からレギュラーの座を獲得した染井。「純粋に（試合に）出し続けてもらって。自分なりに全うできたかなと思う。本当に感謝しています」。思い出は日本選手権出場の喜びよりも、悲願だった都市対抗が実現できなかった方が大きいようで、中でも９回２死まで５―３でリードしながら延長の末に夢を断たれた06年の２次予選を振り返った。

06年の都市対抗２次予選　バイタルは準決勝でＮＴＴ信越クを４―２。伏木海陸運送との決勝は２点を追う７回に３得点し逆転。８回にも１点追加したが９回２死から同点とされると延長10回に２点を勝ち越されて万事休した

◇**染井　典明**（そめい・のりあき）1973年（昭48）9月15日生まれの36歳。茨城県出身。小4から野球を始める。岩井西高では投手と内野手。卒業後、バイタルネット入り。2年目から頭角を現し、三塁手や遊撃手として活躍するとともに主将、コーチも務めた。右投げ右打ち。1㍍78、80㌔。家族は今春に結婚した百合夫人。

新潟大会開会式

存版〟となっている。

2枚組で3000円（税込み）。ジュンク堂新潟店やトップカルチャー蔦屋書店・峰弥書店県内各店などで取り扱っている。問い合わせはＵＸ内ＤＶＤ担当＝☎025（222）1117へ。

---

bj 第15戦（19日　高松市・香川総合体育館）

新潟（7勝8敗）	84	高松（7勝14敗）	74
	15	―	18
	17	―	22
	24	―	14
	28	―	20

BB5連勝！

新潟アルビレックスBBは高松に84―74で勝ち5連勝を決めた。第2Q終了時に52―34と大量18点のリード。チームは試合前日の18日に大型バスで11時間費やして高松入り。長旅の疲労からか第3Qには52―48と肉薄されたが、突き放した。PFアントニオ・パークス(27)の22得点を筆頭に先発4選手が2ケタ得点。バランスよく加点して勝利を決めた。